

# 1 学年における要約指導について

## ～3年間を見通した文章の大意をつかむ指導の基礎～

富谷 圭太

### 1 概 要

本校の生徒の特徴として、国語の現代文分野に出てくる文章（特に評論）の内容を「正確に」つかむことはある程度できるが、「早く」つかむことが苦手な生徒が多い。それはセンター試験等、大学入試においても、問題文の素早い読解が出来ずに時間不足になるなどの点で現れている。

評論等の文章の読解には、低学年時からの地道な読書による知識の積み上げも必要となるが、それと同時に未知の文章をどのように読むか、という「型の習得」が重要となってくる。型をとらえて文章を読むことで、要点や筆者の主張をつかみやすくなり、ひいては、文章の素早い読解につながると考える。

まず、1学年においては、逆接や要約の接続詞など、主に筆者の主張が現れやすい表現に着目し、極端に言うと「機械的に」主張に目処をつけることを目標としている。本文の説明を中心とした授業を減らし、初見の文章の内容をいかに的確に素早く捉えるか、という点に本年度は重点を置き、自学自習に活用できる能力の育成を目指したいと考えている。

今回の公開授業では、「文章全体の大意をつかむ指導について」という国語科の共通課題に基づいて、1時間という短い時間で初見の文章を読解し、200字で要約するところまでを行いたい。

### 2 実施手順

8月に行われた生徒による1回目の授業評価より、「要約の仕方がわからない」という意見が多数見られた。その後、授業やT3（総合的な学習の時間）、週末課題を用いて、要約の練習を増やして行った。（裏面表1参照）

8月まで、教科書教材を用いて、段落ごとに文章全体を図解させていたが、そもそも「図解」の意味と目的が伝えきれず、効果的ではなく思っていた。反面、段落ごとの要約については、解答作成の手順も明快で生徒も理解しやすく、徐々によい解答が作成できる生徒が増えてきた。

その中で、手順を追って要約を作成する方法を、表1の3の『エクソフォニー』を用いて行った。具体的には、形式段落ごとに「1、2カ所」、主張に当たると思われる部分を抜き出させ、それをもとに構成を作らせる作業を行った（別紙1）。その後、表1の4、5を、より簡略化した方法で作成するように指導した（別紙234）。

表1 平成26年度要約指導（11月現在）

|   | 実施時期        | 使用教材                 | 内容                     |
|---|-------------|----------------------|------------------------|
| 1 | 4月          | 『境目』                 | 「要約とは何か」という説明とともに導入として |
| 2 | 5月          | 『ことばとは何か』            | 構成図の作成と要約              |
| 3 | 9月          | 『エクソフォニー』            | 手順を踏んだ要約の作成（別紙1）       |
| 4 | 9月          | 『演じられた風景』            | 手順を踏んだ要約の作成            |
| 5 | 10月         | 『主体という物語』            | より手順を簡略化した要約の作成（別紙234） |
| 6 | 11月         | 模試問題文                | *週末課題として（鷲田清一の文章）      |
| 7 | 11月         | 北大過去問                | *T3課題として               |
| 8 | 11月<br>(本時) | 『トロンボーンを吹く女子学生』(資料1) | 時間を制限した要約の作成（別紙567）    |

\*『 』(二重カギカッコ)は教科書掲載教材(筑摩書房『精選国語総合現代文編』)

### 3 現時点での課題

現時点では、比較的平易な文章(表1の1, 3, 4)では、筋の通った要約を作成でき、また、難解な文章でも精読を行った後ならば(表1の5)、何とかまとめ上げることが出来るのだが、難解な初見の文章(表1の6)だと内容すら理解できず、「機械的に主張を抜き出す」こともままならない生徒が多い。特に、こうした要約を繰り返すことで、評論文自体に対する負担感も若干増していることも危惧される。

こうした、「手も足も出ない」生徒をどうやって思考の場(要約作成の場)に引き出すか、が現時点の大きな課題である。表1の3~5に関しては、「全く書き出せない生徒」に対して、個別に本文の構成図(別紙3)を配布した。できるだけ具体的な手順で、場合によっては書き出しや結論を教師側であらかじめ提示してしまう方法も検討してゆく。

### 4 3年間を見通した文章の大意をつかむ指導

1学年では、まずは「型」をみきわめることを目標とするが、2, 3年では、さらに発展的に文章の構造をみきわめる力をつけられるような指導を行いたい。

2学年においては、「対比構造」と「同値(言い換え)構造」がどのような形で本文中に構造化しているか(もしくは思想として通底しているか)、接続詞を挟んだ狭い範囲だけではなく、文章全体から読み取るような指導を行っていきたい。併せて、小説のあらすじをいかにつかむかを、心情表現の把握を中心に行いたい。

3学年においては、ある文章とある文章の間の主張の違いを考えさせるような、一つの教材を越え、大きなテーマにより社会や人間のあり方を問うような指導を行いたいと考える。たとえば、上記教科書の掲載教材『ことばとは何か』と『エクソフォニー』とは、ともに言語を扱った題材であるが、この二つから共通して読みとれる言語についての考察を要約させる、など、様々な工夫が考えられる。